

まちづくりの方向性4について



施策(4-1) 中小企業の経営力強化と起業の促進

目指す姿

持続的な経営力を誇る企業を輩出するとともに、起業へのチャレンジを地域全体でサポートする環境が整っている。

取組方針

事業者を取り巻く厳しい社会環境

令和4年の区内事業者実態調査によると、今後の経営方針や事業課題として「販路拡大」、「人手不足」、「合理化の不足」、等が挙げられています。コロナ禍による働き方の変化やデジタル化の進展など、中小企業を取り巻く環境は厳しさを増しています。

社会環境の変化や複雑多様化する事業者の経営課題に対応した、きめ細かな支援を継続して実施することが求められています。

起業希望者が抱える課題の多様化

交通利便性が高く、成長分野の企業や教育機関が多く集積する豊島区では、様々なバックグラウンドを持つ人々が活動しており、起業希望者が抱える課題は、起業準備の各段階によって大きく異なり、多様化しています。

起業希望者の特質や一人ひとりが抱える課題を的確に把握し、必要な支援に繋げていくことが重要です。

経営基盤の強化と多角的なビジネス支援

- としまビジネスサポートセンター連携機関の強みを活かして専門相談員を配置し、経営基盤の強化や販路拡大等に向けたワンストップ相談や専門機関の紹介、専門家相談料の補助など、相談機能の充実を図ります。
- 安定した経営、起業に向けて、事業者や起業希望者への融資のあっせんや利子の一部補助、**区独自の中小企業支援補助金**などの経済的支援を行うとともに、**AIやDXなど生産性向上に向けたデジタル化推進を支援**します。
- 中小企業の勤労者支援、働き方改革、リスクリング、女性やシニア、外国人材の活用など**多様な人材確保を支援し、地域産業への関心を高める次世代育成に向けた取組を推進**します。

あらゆる人材へのスタートアップ支援

- デジタル社会の急速な進展に伴い発展が見込まれるデジタル産業など、**今後の日本の産業をけん引する成長分野への起業・スタートアップを支援**します。
- 起業希望者に対して、経営ノウハウ獲得のための個別起業相談、各種セミナー・勉強会の開催、チャレンジ出店、民間のインキュベーション施設と連携した先輩起業家との交流会など、準備段階に応じたきめ細かな支援を行います。
- 女性や学生、シニアなど様々な起業家への支援、起業家同士の交流の促進を図り、**地域全体で多様な起業家を下支えし、豊島区に愛着を持つ地域密着型の起業家を増やしていきます。**

【施策の効果を表す代表的な指標】

成果指標①	現状値 (2023年)	目標値 (2029年)
区内倒産件数【件】	64	30

成果指標②	現状値 (2022年)	目標値 (2029年)
区内新設法人数【件】	1,324	1,490

施策チェックシート

1. 施策名

	旧	新
施策名	新たな価値を生み出すビジネス支援(7-1-1)	中小企業の経営力強化と起業の促進

2. 施策のポイント

現状	課題	取組方針
①事業者は「合理化の不足」、「人手不足」、「DXへの取組」等、社会環境が変化することで多くの課題を抱えている。 ②起業希望者が抱える課題は、起業準備段階によって異なり、多様化している	①事業者を取り巻く厳しい社会環境 ②起業希望者が抱える課題の多様化	①経営基盤の強化と多角的なビジネス支援 ②あらゆる人材へのスタートアップ支援

3. 現計画における主な事業

計画事業
としまビジネスサポートセンター相談事業(285)
販路拡大・売上拡大サポート支援(286)
女性起業家への支援事業～サクラヌbiz応援プロジェクト～(287)
としまスタートアップオフィス運営事業(288)
起業融資の利子補給(289)
その他事業
伝統工芸振興事業

施策チェックシート

4. 環境変化(社会動向・法改正・背景等)

- ◇物価の上昇、デジタル技術の急速な発展、新型コロナウイルス感染症流行の影響等、ビジネス環境が常に大きく変化している。
- ◇人口減少社会において、多くの業種(事業者)が人手不足な状況である。

5. 区民・関係団体等の声

区民・関係団体等の声	・「販路拡大・販売促進」支援の強化を望むとの声が挙がっている。(R5.3 産業振興指針改定に伴う調査) ・人材確保及びDX支援を強化すべきとの声が挙がっている。(R5.7～8 産業団体等へのヒアリング) ・シニア世代や外国人などの専門知識を有する優秀な人材を活用していく必要がある。(R5.7～8 産業団体等へのヒアリング)
施策に反映させた点	・経営基盤の強化と多角的なビジネス支援の一環として中小企業支援事業補助金を実施することを明記した。 ・多くの事業者が課題視している人手不足への対応として、女性やシニア、外国人材の活用など多様な人材確保支援について明記した。

6. 基本構想の3つの理念を意識した点

(1)多様性を意識した点	性別、年齢、国籍等による制限を一切設けず、区内事業者及び起業希望者であれば、経済的支援や起業準備段階に応じたきめ細かな支援を行うことを明記した。
(2)参画と協働を意識した点	としまビジネスサポートセンターは、地域の金融機関及び士業団体と協働による運営を行っていることから、専門相談員等によるワンストップ相談に加え、経営基盤の強化や販路拡大等に向けた専門機関の紹介や専門家相談料の補助など、相談機能の充実を図ることを明記した。
(3)豊島区らしさを意識した点	豊島区は多くの企業、教育機関が集まっており、近隣区市町村から通勤、通学者が多く来街する。また、他区市町村からの転入者も多く、様々なバックグラウンドを持った人々が生活していることから、地域全体で起業家を下支えし、豊島区に愛着を持つ地域密着型の起業家を増やしていくことを明記した。

指標設定チェックシート

施策名	4-1	中小企業の経営力強化と起業の促進
部課名	文化商工部 生活産業課	

【1. 目指す姿、取組方針と指標の対応関係】

目指す姿	取組方針	定量的評価		定性的評価
		成果指標	活動指標	数値目標では捉えられない／ 数値化できない評価の視点
持続的な経営力を誇る”としま100年企業”を輩出するとともに、起業へのチャレンジを地域全体でサポートする環境が整っている。	(1) ○ としまビジネスサポートセンター連携機関の強みを活かして専門相談員を配置し、経営基盤の強化や販路拡大等に向けたワンストップ相談や専門機関の紹介、専門家相談料の補助など、相談機能の充実を図ります。 ○ 安定した経営、起業に向けて、事業者や起業希望者への融資のあっせんや利子の一部補助、区独自の中小企業支援補助金などの経済的支援を行うとともに、AIやDXなど生産性向上に向けたデジタル化推進を支援します。 ○ 中小企業の勤労者支援、働き方改革、リスクリリング、女性やシニア、外国人材の活用など多様な人材確保を支援し、地域産業への関心を高める次世代育成に向けた取組を推進します。	① 区内倒産法人数【件】	③ ビジネスサポートセンター「売上・販路拡大相談」件数【件】	としまビジネスサポートセンター等への相談により経営課題が解消されたか。
		②	④ 各種セミナー・勉強会の開催回数【回】	
	(2) ○ デジタル社会の急速な進展に伴い発展が見込まれるデジタル産業など今後の日本の産業をけん引する成長分野への起業・スタートアップを支援します。 ○ 起業希望者に対して、経営ノウハウ獲得のための個別起業相談、各種セミナー・勉強会の開催、チャレンジ出店、民間のインキュベーション施設と連携した先輩起業家との交流会など準備段階に応じたきめ細かな支援を行います。 ○ 女性や学生やシニアなど様々な起業家への支援、起業家同士の交流の促進を図り、地域全体で多様な起業家を下支えし、豊島区に愛着を持つ地域密着型の起業家を増やしていきます。	① 区内新設法人数【件】	③ 起業支援者数＋特定創業証明書発行件数【件】	豊島区に愛着を持ち、地域と繋がりがあがる起業家が増えたか。
		②	④ 豊島区開業支援事業補助金交付件数【件】	

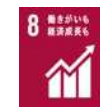
【2. 施策の効果を表す代表的な指標】

【2. 施策の効果を表す代表的な指標】						新基本計画期間(2025-2029)					後期計画と同じ指標→継続 新計画で新規設定→新規	(左記、継続の指標のみ) 後期計画の施策番号・施策名	
指標名				単位	2023	2024	2025	2026	2027	2028			2029
					実績値	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値			目標値
取組方針 (1)	成果指標	①	区内倒産法人数(負債総額1,000万円以上が対象)	件	64	45	42	39	36	33	30	新規	
	成果指標	②											
	活動指標	③	ビジネスサポートセンター「売上・販路拡大」相談件数(窓口・電話)	件	121	130	140	150	160	170	180	新規	
	活動指標	④	各種セミナー・勉強会の開催回数	回	4	6	6	6	6	6	6	新規	
取組方針 (2)	成果指標	①	区内新設法人数	件	1090+一部集計中	1,440	1,450	1,460	1,470	1,480	1,490	継続	7-1-1新たな価値を生み出すビジネス支援
	成果指標	②											
	活動指標	③	起業支援者数+特定創業証明書発行件数	回	387	430	440	450	460	470	480	継続	7-1-1新たな価値を生み出すビジネス支援
	活動指標	④	豊島区開業支援事業補助金交付件数	件	50	50	50	50	50	50	50	新規	

指標			指標の算出方法	指標の設定理由(施策目標との関係)	出典
取組方針(1)	成果指標	①	区内倒産法人数	区内中小企業者の経営状況を示す指標であるため	所管課データ
	成果指標	②			
	活動指標	③	相談件数(電話・窓口)の積算	としまビジネスサポートセンターの活動量を示す指標であるため	所管課データ
	活動指標	④	各種セミナー・勉強会の開催回数の積算	としまビジネスサポートセンターの活動量を示す指標であるため	所管課データ
取組方針(2)	成果指標	①	区内新設法人数	区内で創業する事業者数を示す指標であるため。	所管課データ
	成果指標	②			
	活動指標	③	起業支援者数と特定創業証明書発行件数の積算	起業、創業を支援した活動量を示す指標であるため	所管課データ
	活動指標	④	豊島区開業支援事業補助金交付件数の積算	起業、創業を支援した活動量を示す指標であるため	所管課データ

【3. 計画に掲載する指標の選定】

	指標種類	取組方針及び 指標番号	選定指標	選定理由
1	成果指標(区民意識調査以外)	(1)－①	区内倒産法人数【件】	・各取組方針の進捗を図るにふさわしく、施策を最も広く表していると考えられるため。
2	成果指標(区民意識調査以外)	(2)－①	区内新設法人数【件】	・指標2については後期計画に設定している指標であり、継続して数値を確認、分析できるため。



施策(4-2) 持続可能な商店街に向けた活性化支援

目指す姿

商店街が地域コミュニティの核となり、産学官、分野を超えた多様な主体・多彩な人が連携し、誰もが楽しめ活気がある。

取組方針

商店街の活力低下

区内には、観光客で賑わう商店街や地域密着型商店街など特色豊かな商店街がありますが、商店会数、会員数は減少傾向にあり、販売力が小さい商店街やイベントが開催できない商店街では地域の活力が失われつつあります。

各商店街の魅力や集客力を高めるとともに、賑わい創出と地域経済の活性化を進める必要があります。

環境変化への対応

デジタル技術の進展や、インバウンドの回復など、商店街を取り巻く環境は大きく変化しており、商店街の高齢化・後継者不足の中、新たなニーズへの対応が求められています。

社会環境の変化に対応しつつ、次世代の商店街を担う人材を育成し、持続可能な商店街づくりを進めるための支援が必要です。

商店街の賑わい向上支援

- それぞれの地域が持つ豊かな文化や資源を活かした多彩なイベントを開催することにより、**商店街が観光の目的地となり、来街者で賑わう商店街**を目指し、地域経済を活性化します。
- **近隣商店街との共同開催や、地元の大学や高校、企業等と連携**したイベントを実施することで、商店街がコミュニティの核となり、地域が一体となった賑わいあるまちづくりを進めます。

デジタル化や人材育成による持続可能な商店街づくり

- **ホームページやSNS等のデジタルツールを活用して商店街の魅力を発信**するとともに、商店会マップやデジタルコンテンツなどを活用することで来街者を呼び込み、回遊性を高める取組を支援します。
- 多言語対応やキャッシュレス決済を推進することで、**インバウンド旅行者や来街者の利便性を高めるとともに商店街の販売促進を支援**します。
- 商店街の**空き店舗を活用した新たな事業者の誘致**や、近隣の大学・学生等との連携促進により、**新たな担い手の確保**を進め、商店会の組織力向上と持続可能な商店街づくりを支援します。

【施策の効果を表す代表的な指標】

成果指標①	現状値 (2023年)	目標値 (2029年)
商店街イベント事業来場者【万人】	183	195

成果指標②	現状値 (2023年)	目標値 (2029年)
『商店街を訪れた国内外の人々が困ることなく街歩きを楽しめる環境が整っている』に「どちらかというと思う」の回答【%】	22.6	25.0

施策チェックシート

1. 施策名

	旧	新
施策名	地域産業の活力創出(7-1-2)	持続可能な商店街に向けた活性化支援

2. 施策のポイント

現状	課題	取組方針
①商店会数や会員数の減少、高齢化に伴う地域産業の活力低下 ②デジタル技術の進展やインバウンドの回復など、商店街を取り巻く環境が変化	①各商店街の魅力や集客力の向上、賑わいの創出および地域経済の活性化 ②社会環境の変化への対応と人材育成による、持続可能な商店街の形成	①商店街の賑わい向上支援 ②デジタル化や人材育成による持続可能な商店街づくり

3. 現計画における主な事業

計画事業
商店街施設整備事業支援(296)
商店街販売促進事業支援(297)
商店街イベント事業支援(298)
ファーマーズマーケット事業(299)
その他事業
商店街電灯料補助事業
商店街振興助成経費

施策チェックシート

4. 環境変化(社会動向・法改正・背景等)

- ◇豊島区の商店会数は年々減少し、会員数の減少、高齢化も進んでいる。
- ◇新型コロナウイルス感染症の影響により、業態転換やキャッシュレス決済等のデジタル技術の導入が加速するなど、個店を取り巻く環境が大きく変化している。

5. 区民・関係団体等の声

区民・関係団体等の声	・会員数の減少、高齢化が進み、思うようにイベント事業が開催できない。若手・後継者の育成支援をして欲しい(R5.3 産業振興指針改定に伴う調査、R5.7～8 産業団体ヒアリング)。 ・シャッターが閉まったままの店舗が多いため、人気店ができると街が盛り上がるのではないかと。(令和5年度 区民提案制度より)
施策に反映させた点	・空き店舗活性支援事業による事業者の誘致、近隣大学や町会などと連携した新たな人材の活用について明記した。

6. 基本構想の3つの理念を意識した点

(1)多様性を意識した点	商店街は地域のコミュニティであり区内外から多種多様な人が集う要素があることから、多言語対応やキャッシュレス決済を推進しインバウンドや来街者の利便性向上について明記した。
(2)参画と協働を意識した点	地域の特性を活かした商店街活動には、地域の多様な主体と連携して実施することが不可欠であることから、地域や大学、事業者等と共に取り組むことを明記した。
(3)豊島区らしさを意識した点	観光客でにぎわう商店街や地域密着型商店街など特色豊かな商店街が存在しそれぞれに特徴があることから、それらを活かした多彩なイベントの開催や商店街の魅力発信強化について明記した。

指標設定チェックシート

施策名	4-2	持続可能な商店街に向けた活性化支援
部課名	文化商工部 生活産業課	

【1. 目指す姿、取組方針と指標の対応関係】

目指す姿	取組方針	定量的評価		定性的評価
		成果指標	活動指標	数値目標では捉えられない／ 数値化できない評価の視点
商店街が地域コミュニティの核となり、産学官、分野を超えた多様な主体・多彩な人が連携し、誰もが楽しめ活気がある	(1) ○ それぞれの地域が持つ豊かな文化や資源を活かした多彩なイベントを開催することにより、商店街が観光の目的地となり、来街者で賑わう商店街を目指し、地域経済を活性化します。 ○ 近隣商店街との共同開催や、地元の大学や高校、企業等と連携したイベントを実施することで、商店街がコミュニティの核となり、地域が一体となった賑わいあるまちづくりを進めます。	① 商店街イベント事業来場者数	③ 商店街イベント事業数	・商店街が観光の目的地となり、更に来街者が増えてより一層賑わう商店街となっているか
		②		
	(2) ○ ホームページやSNS等のデジタルツールを活用して商店街の魅力を発信するとともに、商店会マップやデジタルコンテンツなどを活用することで来街者を呼び込み、回遊性を高める取組を支援します。 ○ 多言語対応やキャッシュレス決済を推進することで、インバウンド旅行者や来街者の利便性を高めるとともに商店街の販売促進を支援します。 ○ 商店街の空き店舗を活用した新たな事業者の誘致や、近隣の大学・学生等との連携促進により、新たな担い手の確保を進め、商店会の組織力向上と持続可能な商店街づくりを支援します。	① 「商店街を訪れた国内外の人々が困ることなく街歩きを楽しめる環境が整っていると思う」区民の割合	③ 販売促進事業補助事業数	・デジタル化や人材育成により持続可能な商店街が形成されているか。
		②	④	

【2. 施策の効果を表す代表的な指標】

【2. 施策の効果を表す代表的な指標】					新基本計画期間(2025-2029)								
指標名				単位	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	後期計画と同じ指標→継続 新計画で新規設定→新規	(左記、継続の指標のみ) 後期計画の施策番号・施策名
					実績値	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値		
取組方針 (1)	成果指標	①	商店街イベント事業来場者数	万人	183	186	191	192	193	194	195	継続	7-1-2地域産業の活力創出
	成果指標	②											
	活動指標	③	商店街イベント事業数	事業	52	63	65	67	69	71	73	継続	7-1-2地域産業の活力創出
	活動指標	④											
取組方針 (2)	成果指標	①	「商店街を訪れた国内外の人々が困ることなく街歩きを楽しめる環境が整っていると思う」区民の割合	商店会	22.6	23.1	23.6	24.0	24.4	24.7	25.0	新規	
	成果指標	②											
	活動指標	③	販売促進事業補助事業数	事業	3	2	3	3	3	3	3	継続	7-1-2地域産業の活力創出
	活動指標	④											

指標			指標の算出方法	指標の設定理由(施策目標との関係)	出典
取組方針 (1)	成果指標	①	商店街イベント事業来場者	まちのにぎわいを測ることができる指標であるため	所管課データ
	成果指標	②			
	活動指標	③	商店街イベント事業数	事業に関する実績を把握するための数値であるため	所管課データ
	活動指標	④			
取組方針 (2)	成果指標	①	「商店街を訪れた国内外の人々が困ることなく街歩きを楽しめる環境が整っていると思う」区民の割合	施策に対する区民の印象を把握できる指標であるため	協働のまちづくりに関する区民意識調査
	成果指標	②			
	活動指標	③	販売促進事業補助事業数	事業に関する実績を把握するための数値であるため	所管課データ
	活動指標	④			

【3. 計画に掲載する指標の選定】

	指標種類	取組方針及び 指標番号	選定指標	選定理由
1	成果指標(区民意識調査以外)	(1)ー①	商店街イベント事業来場者	賑わいの創出や、多様な来街者が快適に商店街を利用するための施策を反映する指標であるため
2	成果指標(区民意識調査以外)	(2)ー①	「商店街を訪れた国内外の人々が困ることなく街歩きを楽しめる環境が整っていると思う」区民の割合	



施策(4-3) 消費者教育の推進と消費生活相談の充実

目指す姿

一人ひとりの消費者(区民)が社会、経済、地球環境や将来の子どもたちのことを考えて、安全で明るく豊かな消費生活を送っている。

取組方針

消費者を取り巻く環境の変化

成年年齢の引き下げや社会のデジタル化の進展など消費者を取り巻く環境が大きく変化しています。
消費者の自立を支援するため、消費者教育の必要性がより一層高まっています。
また、消費者自らが消費活動による経済・社会・環境への影響を自覚し、責任を持った行動をとることが求められています。

消費者トラブルの多様化

消費者を取り巻く環境の変化に伴い、消費者トラブルの形も変化しています。
SNSやインターネットを利用した新しい形の消費者トラブルに対応するためには、環境の変化に即した、適切で柔軟な消費生活相談を実施する必要があります。

あらゆる年代への消費者教育の推進

- 多様な消費者を対象とした啓発を推進するため、幼少期から高齢期まで、ライフステージに応じた体系的・継続的な消費者教育を実施し、消費者の自立を支援します。
- 成年年齢引き下げに伴い、若年者が被害者にも加害者にもならないよう、小学生、中学生の頃から発達段階に応じた消費者教育を行い、トラブルを未然に防ぎます。
- 環境・社会・人に配慮するエシカル消費を推進し、地球環境や将来の子どもたちのための責任を持った消費行動を推奨し、SDGsの実現に寄与する啓発を推進します。

相談員のレベルアップと関係機関との連携強化

- 消費者トラブルが多様化する中、消費者相談の最前線である消費者センターでは、常に最新の消費者問題に精通するため、国民生活センターや東京都消費生活総合センターと連携し、消費生活相談員のスキルアップを図るとともに、相談状況の分析を行い、より実効性と専門性の高い相談を行います。
- 相談内容の解決に向けて、的確に関係機関へつなげるため、日頃から高齢者総合相談センターや警察、法テラスなど法律相談を行う関係団体との連携を強化し、広報やSNS等を活用して、消費生活相談窓口の周知を強化します。

【施策の効果を表す代表的な指標】

成果指標①	現状値 (2023年)	目標値 (2029年)	成果指標②	現状値 (2023年)	目標値 (2029年)
「消費生活講座」「出前講座」「出前寄席」「出張講座」の参加人数【人】	935	1000	消費生活でトラブルに悩まされず、相談窓口も充実していると思う区民の割合【%】	10.6	14.0

施策チェックシート

1. 施策名

	旧	新
施策名	権利と責任による消費者市民社会の形成(7-1-3)	消費者教育の推進と消費生活相談の充実

2. 施策のポイント

現状	課題	取組方針
①成年年齢引下げや社会のデジタル化の進展など消費者を取り巻く環境の変化 ②環境変化に伴う消費者トラブルの形の変化	①消費者の自立を支援するため、新しい課題に即した消費者教育が必要 ②新しい形の消費者トラブルに適切かつ柔軟に対応できる相談体制	①あらゆる年代への消費者教育の推進 ②相談員のレベルアップと関係機関との連携強化

3. 現計画における主な事業

計画事業
消費生活相談事業(298)
消費者教育・被害防止啓発事業(299)
その他事業

施策チェックシート

4. 環境変化(社会動向・法改正・背景等)

◇成年年齢の引き下げ、社会のデジタル化の進展、持続可能な社会実現に向けた環境等に配慮した消費者行動が近年の課題として挙げられ、これらの課題に即応した消費者行政が求められている。

5. 区民・関係団体等の声

区民・関係団体等の声	①消費者被害防止と消費者の自立を支援するうえで、消費者教育は重要であり充実させてほしい(R6. 3消費者団体連絡会)。 ②デジタル化などに伴う新しい形の消費生活相談などにも適切かつ柔軟に対応してほしい(R6相談者)。
施策に反映させた点	①多様な消費者を対象とした消費者教育の推進を明記した ②消費生活相談員の研修参加を推進して、相談員のスキルアップを図りより実効性と専門性の高い消費生活相談の充実を明記した。

6. 基本構想の3つの理念を意識した点

(1)多様性を意識した点	多様な消費者を対象とした啓発を推進するため、幼少期から高齢期まで、ライフステージに応じた体系的・継続的な消費者教育の実施について明記した。
(2)参画と協働を意識した点	高齢者総合相談センターや警察、法テラスなど法律相談を行う関係団体と連携した消費者の自立のための支援の実施を明記した。
(3)豊島区らしさを意識した点	豊島区では他区に先んじて消費者教育の専門員として「消費生活啓発員」を配置し、地球環境や将来の子どもたちのための責任を持った消費行動を推奨し、SDGsの実現に寄与する啓発の推進を明記した。

指標設定チェックシート

施策名	4-3	消費者教育の推進と消費生活相談の充実
部課名	文化商工部 生活産業課	

【1. 目指す姿、取組方針と指標の対応関係】

目指す姿	取組方針	定量的評価		定性的評価
		成果指標	活動指標	数値目標では捉えられない／ 数値化できない評価の視点
一人ひとりの消費者(区民)が社会、経済、地球環境や将来の子どもたちのことを考えて、安全で明るく豊かな消費生活を送っている。	(1) ○ 多様な消費者を対象とした啓発を推進するため、幼少期から高齢期まで、ライフステージに応じた体系的・継続的な消費者教育を実施し、消費者の自立を支援します。 ○ 成年年齢引き下げに伴い、若年者が被害者にも加害者にもならないよう、小学生、中学生の頃から発達段階に応じた消費者教育を行いトラブルを未然に防ぎます。 ○ 環境・社会・人に配慮するエシカル消費を推進し、地球環境や将来の子どもたちのための責任を持った消費行動を推奨し、SDGsの実現に寄与する啓発を推進します。	① 「消費生活講座」「出前講座」「出前寄席」「出張講座」の参加人数	③ 「消費生活講座」「出前講座」「出前寄席」「出張講座」の実施回数	社会、経済、地球環境や将来の子どもたちなどのことを考えて消費生活を送れるようになったか
		②	④	
	(2) ○ 消費者トラブルが多様化する中、消費者相談の最前線である消費者センターでは、常に最新の消費者問題に精通するため、国民生活センターや東京都消費生活総合センターと連携し、消費生活相談員のスキルアップを図るとともに、相談状況の分析を行い、より実効性と専門性の高い相談を行います。 ○ 相談内容の解決に向けて、的確に関係機関へつなげるため、日頃から高齢者総合相談センターや警察、法テラスなど法律相談を行う関係団体との連携を強化し、広報やSNS等を活用し、消費生活相談窓口の周知を強化します。	① 消費生活でトラブルに悩まされず、相談窓口も充実していると思う区民の割合	③ 消費者相談受付件数	消費生活相談員に対応に満足したか
		② 消費生活相談員が受講した研修の種類	④ 消費生活相談員研修受講延べ件数	

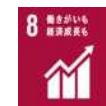
【2. 施策の効果を表す代表的な指標】

【2. 施策の効果を表す代表的な指標】					新基本計画期間（2025-2029）						後期計画と同じ指標→継続 新計画で新規設定→新規	（左記、継続の指標のみ） 後期計画の施策番号・施策名	
指標名				単位	2023 実績値	2024 目標値	2025 目標値	2026 目標値	2027 目標値	2028 目標値			2029 目標値
取組方針（１）	成果指標	①	「消費生活講座」「出前講座」「出前寄席」「出張講座」の参加人数	人	935	950	960	970	980	990	1,000	新規	
	成果指標	②											
	活動指標	③	「消費生活講座」「出前講座」「出前寄席」「出張講座」の実施回数	回	40	40	40	42	42	43	43	新規	
	活動指標	④											
取組方針（２）	成果指標	①	消費生活でトラブルに悩まされず、相談窓口も充実していると思う区民の割合	%	10.6	12.0	12.0	12.0	13.0	13.0	14.0	継続	7-1-3権利と責任による消費者市民社会の形成
	成果指標	②	消費生活相談員が受講した研修の種類	種類	13	15	15	15	15	15	15	新規	
	活動指標	③	消費者相談受付件数	件	2,691	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	新規	
	活動指標	④	消費生活相談員研修受講延べ件数	件	47	50	50	55	55	55	55	新規	

指標			指標の算出方法	指標の設定理由(施策目標との関係)	出典
取組方針(1)	成果指標	①	「消費生活講座」「出前講座」「出前寄席」「出張講座」の参加人数(人)	事業に関する実績を把握するための数値であるため	所管課データ
	成果指標	②			
	活動指標	③	「消費生活講座」「出前講座」「出前寄席」「出張講座」の実施回数	事業にに関する実績を把握するための数値であるため	所管課データ
	活動指標	④			
取組方針(2)	成果指標	①	消費生活でトラブルに悩まされず、相談窓口も充実していると思う区民の割合	施策に対する区民の印象を把握できる指標であるため	区民意識調査
	成果指標	②	消費生活相談員が受講した研修の種類	受講可能な講座内容の種別の数を示す数値であるため	所管課データ
	活動指標	③	消費者相談受付件数	相談事業の成果を表す数値であるため	所管課データ
	活動指標	④	消費生活相談員研修受講延べ件数	受講した研修を量的に表す数値であるため	所管課データ

【3. 計画に掲載する指標の選定】

	指標種類	取組方針及び指標番号	選定指標	選定理由
1	成果指標(区民意識調査以外)	(1)―①	「消費生活講座」「出前講座」「出前寄席」「出張講座」の参加人数(人)	1取り組み方針の進捗を図るうえで最も判断しやすいため。 2区民の声が直接反映されているため。
2	成果指標(区民意識調査)	(2)―①	消費生活でトラブルに悩まされず、相談窓口も充実していると思う区民の割合(%)	



施策(4-4) 観光資源の発掘と発信強化

目指す姿

多彩な文化で国内外から多くの人々を惹きつけ、地域社会・経済に好循環をもたらし、区民も来街者も主役となって賑わいにあふれている。

取組方針

区内各地の賑わい創出

令和5年度に実施した「豊島区観光振興に関する来街者動向調査」の結果より、来街者の約85%は池袋への訪問であり、その半数以上が池袋駅に留まり百貨店などにおける滞在となっています。外国人来街者の区内滞在日数は、日帰りが約60%を占めています。

また、観光情報の入手経路は、インターネットが約25%、口コミが約15%と続く一方で、20～30歳代はWebやSNSを通じた入手割合が高く、年代などにより求められる情報発信が異なります。

さらに、区内の観光案内所は訪問者数が少なく、十分に活用されていません。

これらの現状から、区内各地の多様な観光資源を活かし、情報発信や来街者の受入環境整備を強化することで、地域経済の活性化へつなげる必要があります。

多様な観光資源の活用と旅行前(旅マエ)の情報発信による誘客促進

- 本区には、舞台芸術や、トキワ荘マンガミュージアムを中心としたマンガ・アニメ・コスプレ文化、東京フラフェスタや東京大塚阿波踊りといった地域主体のイベント、IKEBUS、ナイトライフ観光、ソメイヨシノ、歴史的な街並み、商店街など、**多様な観光施設やコンテンツ**があります。これらの観光資源を磨き上げ、国・都・企業・団体・観光案内所などと連携し、**様々な国籍や性別、年代に届く旅行前(旅マエ)の情報発信を強化**することで、文化あふれる都市としての地域ブランドを確立し、**国内外からの来街者の増加を促進**します。

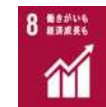
旅行中(旅ナカ)における来街者の受入環境の整備

- **豊島区観光協会を中心に、池袋東口観光案内所や各観光案内所との連携**により、多言語対応や外国語ボランティアガイドなどのおもてなし体制を強化するとともに、来街者の利便性向上のために、**デジタルマップやデータ分析によるデジタルマーケティングの活用**も図ります。**持続可能な観光施策**となるよう、オーバーツーリズム対策等により地域社会に配慮しながら、安全・安心に観光を楽しんでいただける環境を整備していきます。

【施策の効果を表す代表的な指標】

成果指標①	現状値 (2023年)	目標値 (2029年)
「豊島区を魅力ある観光地として他人に紹介できる」と思う区民の割合【%】	29.8%	35.0%

成果指標②	現状値 (2022年)	目標値 (2029年)
訪都外国人旅行者における池袋への訪問割合【%】	21.0%	25.0%



施策(4-4) 観光資源の発掘と発信強化

再掲

目指す姿

多彩な文化で国内外から多くの人々を惹きつけ、地域社会・経済に好循環をもたらし、区民も来街者も主役となって賑わいにあふれている。

取組方針

再掲 区内各地の賑わい創出

令和5年度に実施した「豊島区観光振興に関する来街者動向調査」の結果より、来街者の約85%は池袋への訪問であり、その半数以上が池袋駅に留まり百貨店などでの滞在となっています。外国人来街者の区内滞在日数は、日帰りが約60%を占めています。

また、観光情報の入手経路は、インターネットが約25%、口コミが約15%と続く一方で、20～30歳代はWebやSNSでの入手割合が高く、年代などにより求められる情報発信が異なります。

さらに、区内の観光案内所は訪問者数が少なく、十分に活用されていません。

これらの現状から、区内各地の多様な観光資源を活かし、情報発信や来街者の受入環境整備を強化することで、地域経済の活性化へつなげる必要があります。

地域経済に好循環をもたす観光消費額の拡大

○ 誘客促進や受入環境の整備などのソフト面と、まちづくりのハード面の双方を効果的に推進することで、まちの回遊性を向上させ、**来街者の区内滞在時間を延ばし、観光消費額の拡大**につなげていきます。

また、**産業と観光の融合**により、魅力ある各商店街や区内の銘品、伝統工芸品などを来街者へ効果的にPRすることで、**地域経済に好循環**をもたらししていきます。

さらに、姉妹友好都市である埼玉県秩父市や山形県遊佐町、長野県箕輪町をはじめ、全国の交流都市との連携も強化し、相互に恩恵を享受する事業を展開することで、**本区と交流都市それぞれの活性化**につなげていきます。

【施策の効果を表す代表的な指標】 再掲

成果指標①	現状値 (2023年)	目標値 (2029年)
「豊島区を魅力ある観光地として他人に紹介できる」と思う区民の割合【%】	29.8%	35.0%

成果指標②	現状値 (2022年)	目標値 (2029年)
訪都外国人旅行者における池袋への訪問割合【%】	21.0%	25.0%

施策チェックシート

1. 施策名

	旧	新
施策名	観光資源の発掘と活用(7-2-1) 魅力的な観光情報の発信強化(7-2-2) 交流都市との共生の推進(7-2-3) 多様な来街者の受入環境の整備(7-2-4)	観光資源の発掘と発信強化

2. 施策のポイント

現状	課題	取組方針
①池袋駅に滞在する来街者が多く、外国人来街者の滞在日数は1日が約60% ②年代等により求められる情報発信が異なり、また、観光案内所の訪問率が低い	①区内各地への誘客促進 ②情報発信や来街者の受入環境の整備 ③産業との融合や、交流都市との連携などによる観光消費額の拡大	①多様な観光資源の活用と旅行前の情報発信による誘客促進 ②旅行中における来街者の受入環境整備 ③観光消費額の拡大による経済活性化

3. 現計画における主な事業

計画事業
ナイトライフ観光推進事業(309)
マンガ・アニメ等を活用した観光事業(301)
トキワ荘マンガミュージアム管理運営事業(305)
観光イベント支援事業(311)
文化観光施設回遊促進事業(310)
池袋東口観光案内所運営事業(323)
都市交流推進事業(327)
東アジア文化都市交流事業(330)
その他事業

施策チェックシート

4. 環境変化(社会動向・法改正・背景等)

◇訪日外国人旅行者数は、コロナ禍前以上に増加している。
国の『観光立国推進基本計画』においては、地域住民への配慮などの「持続可能な観光」、「消費額拡大」、「地域誘客促進」をキーワードに、これまで以上に質の向上を重視した観光の必要性を示している。

5. 区民・関係団体等の声

区民・関係団体等の声	①来街者の約85%が池袋への訪問となっており、外国人旅行者の滞在日数は約60%が1日となっている。 ②来街時の情報入手経路は、インターネットが26.1%と一番高い。20～30代はSNSの利用割合が高い。 ③区内の文化施設・イベントについて、区民の認知率・訪問率が低い。 (①～③:令和5年度 豊島区観光振興に関する来街者動向調査および豊島区観光振興に関する区民意識調査)
施策に反映させた点	①様々な観光コンテンツを発掘し、池袋だけでなく、各地への誘客促進や滞在時間の延長へつなげることを明記した。 ②公民連携により、様々なターゲットに届く情報発信に取り組むことを明記した。 ③オーバーツーリズム対策など、区民や地域社会に配慮した持続可能な観光施策に取り組むことを明記した。

6. 基本構想の3つの理念を意識した点

(1)多様性を意識した点	○池袋に限らず、区内各地の様々な魅力を掘り起こすことを明記した。 ○国籍や性別、年代等の様々なターゲットを意識した情報発信を行うことを明記した。
(2)参画と協働を意識した点	○国・都・企業・団体・大学等との連携により、区内への誘客促進や効果的な情報発信、来街者のおもてなし体制の強化など、観光施策に資する各取組を推進することを明記した。
(3)豊島区らしさを意識した点	○施設等のハード面や、様々な事業展開のソフト面、そして多様な公民連携を生かして、観光施策を推進することを明記した。

指標設定チェックシート

施策名	4-4	観光資源の発掘と発信強化
部課名	文化商工部文化観光課	

【1. 目指す姿、取組方針と指標の対応関係】

目指す姿	取組方針	定量的評価		定性的評価
		成果指標	活動指標	数値目標では捉えられない／ 数値化できない評価の視点
多彩な文化で国内外から多くの人々を惹きつけ、地域社会・経済に好循環をもたらし、区民も来街者も主役となって賑わいにあふれている。	(1) 【多様な観光資源の活用と旅行前(旅マエ)の情報発信による誘客促進】 ○本区には、舞台芸術や、トキワ荘マンガミュージアムを中心としたマンガ・アニメ・コスプレ文化、ソメイヨシノ、IKEBUS、ナイトライフ観光、東京フラフェスタや東京大塚阿波踊りといった地域主体のイベント、商店街、歴史的な街並みなど、多様な観光施設やコンテンツがあります。 これらの観光資源を磨き上げ、国・都・企業・団体・観光案内所などと連携し、様々な国籍や性別、年代に届く旅行前(旅マエ)の情報発信を強化することで、文化あふれる都市としての地域ブランドを確立し、国内外からの誘客を促進します。	① 「豊島区を魅力ある観光地として他人に紹介できる」と思う区民の割合【%】	③ IKEBUSアトカルツア一年間参加者数【人】	・区内各地の観光消費の拡大され、地域経済の活性化につながっているか
		② トキワ荘マンガミュージアム及び関連施設年間来館者数【人】	④ トキワ荘マンガミュージアムでの特別企画展の年間実施回数【回】	
	(2) 【旅行中(旅ナカ)における来街者の受入環境の整備】 ○豊島区観光協会を中心に、池袋東口観光案内所や各観光案内所との連携により、言語対応や外国語ボランティアガイドなどのおもてなし体制を強化し、来街者の利便性向上のためにデジタル技術の活用も図ります。 持続可能な観光施策となるよう、オーバーツーリズム対策等により地域社会に配慮しながら、安全・安心に観光を楽しんでいただける環境を整備していきます。	① 豊島区の延べ宿泊者数【人】	③ 池袋東口観光案内所の対応件数【件】	・区や企業・団体などが連携し、様々な媒体で区の魅力を発信できているか ・来街者の区内滞在における満足度が上がっているか
		② 訪都外国人旅行者における池袋への訪問割合【%】	④ 豊島区文化観光課Instagramのフォロワー数【人】	

【2. 施策の効果を表す代表的な指標】

【2. 施策の効果を表す代表的な指標】					新基本計画期間(2025-2029)						後期計画と同じ指標→継続 新計画で新規設定→新規	(左記、継続の指標のみ) 後期計画の施策番号・施策名	
指標名				単位	2023	2024	2025	2026	2027	2028			2029
					実績値	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値			目標値
取組方針 (1)	成果指標	①	「豊島区を魅力ある観光地として他人に紹介できる」と思う区民の割合	%	29.8	30.0	31.0	32.0	33.0	34.0	35.0	継続	7-2-1観光資源の発掘と活用
	成果指標	②	トキワ荘マンガミュージアム及び関連施設年間来館者数	人	123,447	125,000	130,000	135,000	140,000	145,000	150,000	継続	7-2-1観光資源の発掘と活用
	活動指標	③	IKEBUSアトカルツアー年間参加者数	人	609	650	700	750	800	850	900	新規	
	活動指標	④	トキワ荘マンガミュージアムでの特別企画展の年間実施回数	回	3	3	3	3	3	3	3	新規	
取組方針 (2)	成果指標	①	豊島区の延べ宿泊者数	人	-	4,000,000	4,100,000	4,200,000	4,300,000	4,400,000	4,500,000	新規	
	成果指標	②	訪都外国人旅行者における池袋への訪問割合	%	-	22.0	22.5	23.0	23.5	24.0	25.0	新規	
	活動指標	③	池袋東口観光案内所の対応件数	件	-	20,000	21,000	22,000	23,000	24,000	25,000	新規	
	活動指標	④	豊島区文化観光課Instagramのフォロワー数	人	1,050	1,500	2,000	2,500	3,000	3,500	4,000	新規	

指標			指標の算出方法	指標の設定理由(施策目標との関係)	出典
取組方針 (1)	成果指標	①	「豊島区を魅力ある観光地として他人に紹介できる」と思う区民の割合【%】	多様な観光コンテンツが活用され、区民が誇れる観光施策となっているかを示す指標のため	協働のまちづくりに関する区民意識調査
	成果指標	②	トキワ荘マンガミュージアムの年間来館者数【人】	マンガ・アニメを活用したまちづくりの成果を示す指標のため	所管課データ
	活動指標	③	IKEBUSアトカルツアー年間参加者数【人】	地域資源を活用した観光事業展開を測る指標のため	所管課データ
	活動指標	④	トキワ荘マンガミュージアムでの特別企画展の年間実施回数【回】	トキワ荘を活用した事業展開を測る指標のため	所管課データ
取組方針 (2)	成果指標	①	豊島区の延べ宿泊者数【人】	国内外からの観光客数を示す指標のため	RESAS地域経済分析システム
	成果指標	②	訪都外国人旅行者における池袋への訪問割合【%】	外国人観光客について池袋への誘客促進効果を測る指標のため	国・地域別外国人旅行者行動特性調査(東京都)
	活動指標	③	池袋東口観光案内所の対応件数【件】	旅行中の観光客への対応状況を示す指標のため	所管課データ
	活動指標	④	豊島区文化観光課Instagramのフォロワー数【人】	観光情報発信の状況を示す指標のため	所管課データ

【3. 計画に掲載する指標の選定】

	指標種類	取組方針及び 指標番号	選定指標	選定理由
1	成果指標(区民意識調査)	(1)－①	「豊島区を魅力ある観光地として他人に紹介できる」と思う区民の割合【%】	両指標によって、区民と来街者の双方にメリットのある観光施策となっているかを測ることができるため
2	成果指標(区民意識調査以外)	(2)－②	訪都外国人旅行者における池袋への訪問割合【%】	

指標設定チェックシート

施策名	4-4	観光資源の発掘と発信強化
部課名	文化商工部文化観光課	

【1. 目指す姿、取組方針と指標の対応関係】

目指す姿	取組方針	定量的評価				定性的評価
		成果指標		活動指標		数値目標では捉えられない／ 数値化できない評価の視点
多彩な文化で国内外から多くの人々を惹きつけ、地域社会・経済に好循環をもたらし、区民も来街者も主役となって賑わいにあふれている。	(3) 【地域経済に好循環をもたらす観光消費額の拡大】 ○誘客促進や受入環境の整備などのソフト面と、まちづくりのハード面の双方を効果的に推進することで、まちの回遊性を向上させ、来街者の区内滞在時間を延ばし、観光消費額の拡大につなげていきます。 また、産業と観光の融合により、魅力ある各商店街や区内の銘品、伝統工芸品などを来街者へ効果的にPRすることで、地域経済に好循環をもたらしていきます。 さらに、埼玉県秩父市や山形県遊佐町、長野県箕輪町をはじめとした全国の交流都市との連携も強化し、相互に恩恵を享受する事業を展開することで、本区と交流都市それぞれの活性化につなげていきます。	①	「区内で地方の特産品や観光情報などを入手する機会がある」と思う区民の割合	③	物産展等に出店した交流自治体の数	・事業を通じて豊島区と交流都市の住民間で交流が継続して行われるような関係性が構築できたか。 ・交流事業を継続して実施するために、豊島区と交流都市の双方で事業を組織として進める体制が整えられているか。
		②	交流都市と連携して実施した事業の数	④	「全国各自治体の連携事業レポート」で報告した、交流都市を相手とした活動件数	

【2. 施策の効果を表す代表的な指標】

【2. 施策の効果を表す代表的な指標】					新基本計画期間(2025-2029)								
指標名				単位	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	後期計画と同じ指標→継続 新計画で新規設定→新規	(左記、継続の指標のみ) 後期計画の施策番号・施策名
					実績値	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値		
取組方針 (3)	成果指標	①	「区内で地方の特産品や観光情報などを入手する機会がある」と思う区民の割合	%	20.6	21.0	21.5	22.0	23.0	24.0	25.0	継続	7-2-3交流都市との共生の推進
	成果指標	②	交流都市と連携して実施した事業の数	回	22.0	23.0	24.0	25.0	26.0	27.0	28.0	新規	
	活動指標	③	物産展等に出店した交流自治体の数	都市	23	24	25	26	27	28	29	新規	
	活動指標	④	「全国各自治体の連携事業レポート」で報告した、交流都市を相手とした活動件数	個	47	48	49	50	51	52	53	新規	

指標		指標の算出方法		指標の設定理由(施策目標との関係)		出典
取組方針 (3)	成果指標	①	「区内で地方の特産品や観光情報などを入手する機会がある」と思う区民の割合	交流事業の成果が区民に還元されているかを測る指標のため		協働のまちづくりに関する区民意識調査
	成果指標	②	交流都市と連携して実施した事業の数を計上する	各交流自治体との調整結果を測る指標のため		所管課データ
	活動指標	③	物産展等に出店した交流自治体の数を計上する	事業実施における各自治体との調整事務を測る指標であるため		所管課データ
	活動指標	④	「全国各自治体の連携事業レポート」の報告件数	報告件数により、円滑な事業実施件数を測ることができるため		全国各自治体の連携事業レポート

【3. 計画に掲載する指標の選定】

	指標種類	取組方針及び 指標番号	選定指標	選定理由
1	成果指標(区民意識調査)	(1)-①	「豊島区を魅力ある観光地として他人に紹介できる」と思う区民の割合【%】	両指標によって、区民と来街者の双方にメリットのある観光施策となっているかを測ることができるため
2	成果指標(区民意識調査以外)	(2)-②	訪都外国人旅行者における池袋への訪問割合【%】	



施策(4-5) 地域文化の継承と文化芸術の創造・発展

目指す姿

- 区民が、地域文化へ誇りを持ち、愛着が深まり、文化活動への参加が生活の一部となる。
- 文化資源を保存・活用し、区民が積極的に文化芸術活動に参加・鑑賞することで、文化の担い手が次々と生まれ、次世代への文化の継承が自然に行われ、新たな文化が生まれる。

取組方針

文化芸術への参加促進

コロナ禍を経て、文化施設の利用率と観覧者数が回復しつつあります。
次世代が文化芸術に触れられる機会を増やすための一層の取組が必要です。
施策の推進にあたっては、あらゆる主体との連携を強化し、魅力的な事業を展開し、賑わいあふれるまちづくりが求められます。

地域文化の継承

区民意識調査において、44.5%の区民が今後の重視すべき優先度として文化資源の保存・活用を挙げています。
一方で、区内にある文化財の保存費用や有効活用が課題となっています。また、地域の魅力をより効果的に伝えることが求められます。さらに、地域で育まれてきた文化の継承と保護も重要であり、そのための具体的な方策が必要です。

文化参加の機会拡充

- 「としま文化の日」を中心に公民連携を今まで以上に強化し、障害者、子ども、外国人など多様な人々が楽しめる文化活動を提供します。
- 文化事業に直接参加できない人のために、VRやオンライン配信などを活用し、魅力的な文化体験の機会を創出します。

新たな文化創造と地域力の強化

- これまでの文化を継承し、新しいジャンルの文化も積極的に受け入れ、多様な魅力を広めます。特に、若い世代の自由な発想力や創造力を活かした事業を応援することで、新たな文化を創造し続けます。
- これまで培ってきた「区民が区民の文化活動を応援し支える」精神を受け継ぎ、地域全体で文化を育て、支えることでさらなる文化の発展を推進します。

歴史的文化財の保護と地域文化の発信力向上

- 長年にわたり守り続けてきた文化財について、歴史的価値を損なうことなく、持続的に活用していく取組を進めます。また、豊島区特有の資料はデジタル化して広く情報発信するなど、文化財の継承と積極的な活用により、地域の文化意識向上に貢献します。
- 長崎獅子舞や阿波踊り、伝統工芸や池袋モンパルナスなどの地域文化を着実に継承し、その魅力を広く発信していくことで、豊島区を訪れる人々に新たな感動と発見を提供します。

【施策の効果を表す代表的な指標】

成果指標①	現状値 (2023年)	目標値 (2029年)
「文化芸術に触れる機会が多くなった」 と思う区民の割合【%】	34.6	50.0

成果指標②	現状値 (2023年)	目標値 (2029年)
郷土資料館・雑司が谷旧宣教師館・鈴木信太郎記念館の来館者数【名】	60,823	85,000

施策チェックシート

1. 施策名

	旧	新
施策名	①文化芸術の鑑賞・参加機会の創出(8-1-1) ②地域文化・伝統文化の継承と発展(8-1-2)	地域文化の継承と文化芸術の創造・発展

2. 施策のポイント

現状	課題	取組方針
①コロナ禍を経て、文化施設の利用率と観覧者数が回復しつつある。 ②44.5%の区民が今後の重視すべき優先度として文化資源の保存・活用を挙げている(区民意識調査)。	①次世代が文化芸術に触れる取り組み ②区内文化財の保存や活用、継承と保護	①公民連携の強化、多様な文化活動の提供、デジタル技術の活用した文化機会の創出 ②新ジャンルの文化の取り入れと区民が区民の文化活動を応援し支える仕組みの継続 ③文化財の継承と積極的な活用、魅力発信

3. 現計画における主な事業

計画事業
芸術文化劇場の運営と文化芸術発信事業(324)
文化芸術創造支援事業(329)
子どものための文化体験事業(332)
としま文化の日推進事業(335)
その他事業

施策チェックシート

4. 環境変化(社会動向・法改正・背景等)

- ◇デジタルシフトの加速: インターネットとデジタル技術の進展により、情報発信や文化資源の保存・活用においてデジタル手段の活用が増加。
- ◇コロナ禍の影響: 新型コロナウイルス感染症の影響で、一時的に文化施設の利用が制限され、オンラインイベントの導入など新たな取り組みが必要になった。

5. 区民・関係団体等の声

区民・関係団体等の声	2023年11月1日に実施した都響コンサートでは、多くの参加者がコンサートに対して非常に高い満足度を示しており、特に子供向けの選曲や、家族や障害をお持ちの方が参加できる点が評価され、次回の開催を希望する声が多い(R5.11 としま文化の日都響スペシャルコンサートアンケート)。
施策に反映させた点	公民連携を推進し、これまでアプローチできていなかった子どもや障害者など、多様な人々が楽しめる文化イベントを提供する。親子で参加できる文化体験の機会を増やし、かけがえのない体験を創出する。

6. 基本構想の3つの理念を意識した点

(1)多様性を意識した点	・多様な人々が楽しめる文化活動を展開することで、誰もが文化事業を享受することができることを意識。 (施策作成シート 障害者、子ども、外国人など多様な人々が楽しめる文化活動を提供、と明記)
(2)参画と協働を意識した点	・公民連携を通じて文化事業を推進し、協働で文化芸術への参加意識を高める取り組みを進める。また、文化を育てる主体として「区民による文化事業の展開」を意識した。 (施策作成シート 公民連携の強化を明記 「区民が区民の文化活動を応援し支える」精神を受け継ぎ、と明記)
(3)豊島区らしさを意識した点	・「としま文化の日」という独自の取り組みや区内にある文化財を活用することを通じて、文化活動への関心を高めていく。 (施策作成シート としま文化の日に触れるほか、長崎獅子舞や阿波踊り、伝統工芸や池袋モンパルナスなどの地域文化の継承について触れ、地域の文化意識の向上に貢献することを明記)

指標設定チェックシート

施策名	4-5	地域文化の継承と文化芸術の創造・発展
部課名	文化商工部 文化デザイン課	

【1. 目指す姿、取組方針と指標の対応関係】

目指す姿	取組方針	定量的評価		定性的評価
		成果指標	活動指標	数値目標では捉えられない／ 数値化できない評価の視点
区民が、地域文化へ誇りを持ち、愛着が深まり、文化活動への参加が生活の一部となる。文化資源を保存・活用し、区民が積極的に文化芸術活動に参加・鑑賞することで、文化の担い手が次々と生まれ、次世代への文化の継承が自然に行われ、新たな文化が生まれる。	(1) ○「としま文化の日」を中心に公民連携を今まで以上に強化し、障害者、子ども、外国人など多様な人々が楽しめる文化活動を提供します。 ○文化事業に直接参加できない人のために、VRやオンライン配信などを活用し、魅力的な文化体験の機会を創出します。	① 「文化芸術に触れる機会が多くなった」と思う区民の割合【％】	③ 区立劇場、ホール、野外劇場の年間来場者数【万人】	評価基準1: 文化施設の活用度 ・施設利用者からのフィードバックやアンケートを通じて、利用満足度を測定。 評価基準2: 「としま文化の日」の効果 ・「としま文化の日」に開催されたイベントの数と参加者数を評価。 ・イベントの質や魅力についての参加者からのフィードバックを収集。 評価基準3: 次世代の文化芸術の担い手の育成 ・若年層の文化芸術活動への参加状況を評価。 ・子どもや若者向けのプログラムやイベントの実施状況と、その参加者からの反応を調査。
		②	④ 公民連携による文化事業の実施件数【件】	
	(2) ○これまでの文化を継承し、新しいジャンルの文化も積極的に受け入れ、多様な魅力を広めます。特に、若い世代の自由な発想力や創造力を活かした事業を応援することで、新たな文化を創造し続けます。 ○これまで培ってきた「区民が区民の文化活動を応援し支える」精神を受け継ぎ、地域全体で文化を育て、支えることでさらなる文化の発展を推進します。	① 「文化芸術に触れる機会が多くなった」と思う区民の割合【％】	③ 公民連携による文化事業の実施件数【件】	
		②	④	

【2. 施策の効果を表す代表的な指標】

【2. 施策の効果を表す代表的な指標】					新基本計画期間（2025～2029）						後期計画と同じ指標→継続 新計画で新規設定→新規	（左記、継続の指標のみ） 後期計画の施策番号・施策名	
指標名				単位	2023 実績値	2024 目標値	2025 目標値	2026 目標値	2027 目標値	2028 目標値			2029 目標値
取組方針 （１）	成果指標	①	「文化芸術に触れる機会が多くなった」と 思う区民の割合【％】	％	34.6	37.0	39.0	42.0	45.0	47.0	50.0	継続	施策８－１－１
	成果指標	②											
	活動指標	③	区立劇場、ホールの年間来場者数【万人】	万人	40.9	42.4	44.0	45.7	47.4	49.1	50.9	継続	施策８－１－１
	活動指標	④	公民連携による文化事業の実施件数【件】	件	－	5	5	5	5	5	5	新規	
取組方針 （２）	成果指標	①	「文化芸術に触れる機会が多くなった」と 思う区民の割合【％】	％	34.6	37.0	39.0	42.0	45.0	47.0	50.0	継続	施策８－１－１
	成果指標	②											
	活動指標	③	公民連携による文化事業の実施件数【件】	件	－	5	5	5	5	5	5	新規	
	活動指標	④											

指標		指標の算出方法		指標の設定理由(施策目標との関係)		出典
取組方針 (1)	成果指標	①	「文化芸術に触れる機会が多くなった」と 思う区民の割合【%】	施策に対する区民の印象を把握できる指標であり、施策の実効性を評価できる。		協働のまちづくりに関する区民意識調査
	成果指標	②				
	活動指標	③	区立劇場、ホール、野外劇場の年間来場者数【万人】	施設の年間来場者数は、文化施設の活用状況と地域住民の文化活動への参加度を評価できる。		所管課データ
	活動指標	④	公民連携による文化事業の実施件数【件】	官民の協力関係の強化(連携の広がり)と文化事業の多様性を測定することができる。		所管課データ
取組方針 (2)	成果指標	①	「文化芸術に触れる機会が多くなった」と 思う区民の割合【%】	施策に対する区民の印象を把握できる指標であり、施策の実効性を評価できる。		協働のまちづくりに関する区民意識調査
	成果指標	②				
	活動指標	③	公民連携による文化事業の実施件数【件】	官民の協力関係の強化(連携の広がり)と文化事業の多様性を測定することができる。		所管課データ
	活動指標	④				

【3. 計画に掲載する指標の選定】

	指標種類	取組方針及び 指標番号	選定指標	選定理由
1	成果指標(区民意識調査)	(1)-①	「文化芸術に触れる機会が多くなった」と 思う区民の割合【%】	・(1)-①は、区民が文化芸術に触れる機会が増えたと感じることは、施策が実際に区民の生活に影響を与えていることを反映すると考えられる。文化施設の利用状況やイベント参加率などの客観的な指標と組み合わせることで、施策の効果を総合的に把握する有用な指標となる。 ・(2)-①は、(1)-①と同じ。
2	成果指標(区民意識調査)	(1)-②	「文化芸術に触れる機会が多くなった」と 思う区民の割合【%】	

指標設定チェックシート

施策名	4-5	地域文化の継承と文化芸術の創造・発展
部課名	文化商工部 文化デザイン課	

【1. 目指す姿、取組方針と指標の対応関係】

目指す姿	取組方針	定量的評価		定性的評価
		成果指標	活動指標	数値目標では捉えられない／ 数値化できない評価の視点
区民が、地域文化へ誇りを持ち、愛着が深まり、文化活動への参加が生活の一部となる。文化資源を保存・活用し、区民が積極的に文化芸術活動に参加・鑑賞することで、文化の担い手が次々と生まれ、次世代への文化の継承が自然に行われ、新たな文化が生まれる。	(1)	① 郷土資料館・雑司が谷旧宣教師館・鈴木信太郎記念館の来館者数【人】	③ 郷土資料館、雑司が谷旧宣教師館、鈴木信太郎記念館で行われたワークショップ・イベントの参加者数【人】	評価基準1: 企画展の魅力と参加者の反応 ・参加者からのフィードバックやアンケート結果を収集し、満足度や興味を測定。
		②	④ X(旧Twitter、)等、SNSの閲覧数【件】	
	(2)	①	③	
		②	④	

【2. 施策の効果を表す代表的な指標】

【2. 施策の効果を表す代表的な指標】						新基本計画期間(2025-2029)							
指標名				単位	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	後期計画と同じ指標→継続 新計画で新規設定→新規	(左記、継続の指標のみ) 後期計画の施策番号・施策名
					実績値	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値		
取組方針 (1)	成果指標	①	郷土資料館・雑司が谷旧宣教師館・鈴木信太郎記念館の来館者数【名】	名	60,823	64,000	68,000	72,000	76,000	81,000	85,000	新規	
	成果指標	②											
	活動指標	③	郷土資料館・雑司が谷旧宣教師館・鈴木信太郎記念館で行われたワークショップ・イベントの参加者数【名】	名	247	260	280	300	320	340	360	新規	
	活動指標	④	X(旧Twitter、)等、SNSの投稿数【件】	件	64.0	300.0	300.0	300.0	300.0	300.0	300.0	新規	
取組方針 (2)	成果指標	①											
	成果指標	②											
	活動指標	③											
	活動指標	④											

指標			指標の算出方法	指標の設定理由(施策目標との関係)	出典
取組方針 (1)	成果指標	①	郷土資料館・雑司が谷旧宣教師館・鈴木信太郎記念館の来館者数【人】	施設の来館者数は、地域文化資源への関心度や利用状況を直接反映するため、施設の魅力や情報発信の効果を評価する指標として適している。	所管課データ
	成果指標	②			
	活動指標	③	郷土資料館・雑司が谷旧宣教師館・鈴木信太郎記念館で行われたワークショップ・イベントの参加者数【人】	ワークショップやイベントの参加者数は、地域文化の体験機会の提供状況と区民の参加意欲を示し、文化活動への積極的な関与を評価できる。	所管課データ
	活動指標	④	X(旧Twitter、)等、SNSの閲覧数【件】	SNSの閲覧数は、情報発信の効果と区民や広範な視聴者層への関心度を把握できる。	所管課データ
取組方針 (2)	成果指標	①			
	成果指標	②			
	活動指標	③			
	活動指標	④			

【3. 計画に掲載する指標の選定】

	指標種類	取組方針及び 指標番号	選定指標	選定理由
1	成果指標(区民意識調査以外)	(1)-①	郷土資料館・雑司が谷旧宣教師館・鈴木信太郎記念館の来館者数【人】	・(1)-①は、来館者数の把握は、文化施設が区民等にとって魅力的であり、地域文化の保存・活用が効果的に行われていることを示す。また、来館者数のデータは具体的で測定しやすく、施策の成果を客観的に評価するための信頼性の高い指標である。
2				



施策(4-6) 学習活動の支援を通じた生涯学習の推進

目指す姿

- いつでもどこでも自分に合った方法で学べる環境が整い、多様な学びの機会が広がっている。
- 学びの成果を次の活動に活かし、人と地域資源の循環(わ)が生まれることで、地域コミュニティが活性化し、新しいアイデアと活力に満ちた変化が実現している。

取組方針

学びのスタイルの多様化

アフターコロナにおける社会の変化や、ライフスタイルの多様化に伴い、その時々ニーズに応じた学習機会を提供することが求められています。

区民の誰もがいつでもどこでも学びに触れられるよう、学ぶ側の多様性に合わせた学びの場を整備する必要があります。

生涯学習の「場」の整備

- 地域文化創造館や図書館を、障害の有無、年齢等にかかわらず、誰もがより利用しやすい生涯学習の場として整備します。
- 関係団体・大学・企業などとの連携・協働により、生涯学習施設をハブとした学びの循環を生み出します。
- 最新のデジタル技術やリモート学習ツールを導入し、オンラインとオフラインの両方で学べる環境を整え、日本語を母語とする・しない等に関わらず、誰もが学ぶ機会を得られるよう取り組みます。
- 子どもが学校以外で学びの体験に触れられる機会を整備することで、子どもたちの豊かな成長と学びを支援します。

学びと活動が循環する仕組み

生涯学習は、個々の学びの成果を個人にとどめるだけでなく、学びの成果を生かし、地域人材の育成を促したり、地域資源を活用したまちづくりを進めることで、学びと地域活動の循環を生み出すものです。

学んだ成果を積極的に地域に還元する仕組みを構築する必要があります。

学習活動を支援する人材の活用とネットワークの支援

- 社会教育士をはじめ地域の学びを支援する人材の活用や学習活動のネットワーク構築の支援等により、学びのプラットフォームを整備し、あらゆる主体が参画・協働し学びの成果を地域コミュニティの活性化につなげます。
- 学んだ成果を外部へ発信・発表する場を増やすことで、自分の学びを他の人の学びへどう繋げるかを発見し、学びの循環の創出につなげます。

【施策の効果を表す代表的な指標】

成果指標①	現状値 (2023年)	目標値 (2029年)
区立図書館(貸出コーナー含む)の図書年間貸出冊数【冊】	2,092,784	2,135,838

成果指標②	現状値 (2023年)	目標値 (2029年)
「学んだことを地域で生かして活動をしている」と思う区民の割合【%】	7.7	9.0

施策チェックシート

1. 施策名

	旧	新
施策名	多様な学習活動の支援と学びの循環の創造(8-2-1)	学習活動の支援を通じた生涯学習の推進

2. 施策のポイント

現状	課題	取組方針
①学びのスタイルが多様化している ②学びと地域活動の循環を生み出すことを目指している	①誰もがいつでもどこでも学ぶことができる学びの場の整備 ②学んだ成果を地域に還元する仕組みの構築	①生涯学習の「場」の整備 ②学習活動を支援する人材の活用とネットワーク構築の支援

3. 現計画における主な事業

計画事業
地域文化創造館の管理・運営(344)
点字図書館障害者サービス事業(345)
子どもの読書活動支援事業(346)
大学との協働による「としまコミュニティ大学」(347)
その他事業
千早地域文化創造、千早図書館の整備検討
千登世橋教育文化センター再整備方針の検討
池袋図書館の改築

施策チェックシート

4. 環境変化(社会動向・法改正・背景等)

- ◇アフターコロナにおける社会の変化や、ライフスタイルの多様化に伴い、その時々ニーズに応じた学習機会を提供することが求められている。
- ◇学んだ成果を積極的に地域に還元するしくみづくりが必要となっている。
- ◇学びの成果を地域活性化につなげる人材の充実を目指し、2027年社会教育法改正の方針である。(文部科学省発表より)

5. 区民・関係団体等の声

区民・関係団体等の声	①年齢、性別、障害の有無、国籍問わず、様々な方から、様々な内容について学びたいという声がある。 (R5年度 地域文化創造館利用者満足度調査) ②学んだ成果を発表する機会が欲しい(R6.5 日曜教室保護者会、R6.4 としまコミュニティ大学運営委員会)
施策に反映させた点	①区民の誰もが学びに触れられるよう、学ぶ側の多様性に合わせた学びを提供することを明記した。 ②学んだ成果を発表する場を増やすことを明記した。

6. 基本構想の3つの理念を意識した点

(1)多様性を意識した点	○ 多様化するニーズに応じて、年齢、性別、障害の有無、日本語を母語とする・しない等に関わらず、誰もが学習の機会を得られるよう取り組むことを明記した。
(2)参画と協働を意識した点	○ 生涯学習による地域コミュニティの活性化を目指すためには、多様な主体との連携が不可欠であることから、社会教育士をはじめとする地域の学びを支援する人材や、関係団体、大学、企業等と連携することを明記した。
(3)豊島区らしさを意識した点	○ 総人口に対して外国人が占める割合が約10%と23区で2番目に高いという背景から、日本語を母語としない方への学習機会についても明記した。 ○ 区の強みである豊富な文化施設(地域文化創造館や図書館等)の活用を明記した。

指標設定チェックシート

施策名	4-6	学習活動の支援を通じた生涯学習の推進
部課名	文化商工部 学習・スポーツ課	

【1. 目指す姿、取組方針と指標の対応関係】

目指す姿	取組方針	定量的評価		定性的評価
		成果指標	活動指標	数値目標では捉えられない／ 数値化できない評価の視点
○ いつでもどこでも自分に合った方法で学べる環境が整い、多様な学びの機会が広がっている。 ○ 学びの成果を次の活動に活かし、人と地域資源の循環（わ）が生まれることで、地域コミュニティが活性化し、新しいアイデアと活力に満ちた変化が実現している。	(1)	① 「地域文化創造館で実施している事業に参加したことがある」と回答した人の割合【%】	③ としまコミュニティ大学講座実施回数【回】	・子どもが学校以外の学びに参加している事例
		② 区立図書館（貸出コーナー含む）の図書年間貸出冊数【冊】	④ 区立図書館の蔵書数【冊】	
	(2)	① 「学んだことを地域で生かして活動をしている」と思う区民の割合【%】	③ 学習成果の発表機会数【回】	・地域でネットワークが形成され、区民主体による自発的な活動につながっている ・継続して活動を行っている人や団体の事例
		② 読み聞かせボランティアを派遣して開催したおはなし会への参加【回】	④ 読み聞かせボランティア派遣延人数【人】	

【2. 施策の効果を表す代表的な指標】

【2. 施策の効果を表す代表的な指標】					新基本計画期間(2025-2029)						後期計画と同じ指標→継続 新計画で新規設定→新規	(左記、継続の指標のみ) 後期計画の施策番号・施策名	
指標名				単位	2023 実績値	2024 目標値	2025 目標値	2026 目標値	2027 目標値	2028 目標値			2029 目標値
取組方針 (1)	成果指標	①	「地域文化創造館で実施している事業に参加したことがある」と回答した人の割合	%	40.5	41.0	41.5	42.0	42.5	43.0	43.5	新規	
	成果指標	②	区立図書館(貸出コーナー含む)の図書年間貸出冊数	冊	2,092,784	2,099,899	2,107,038	2,114,201	2,121,389	2,128,601	2,135,838	新規	
	活動指標	③	としまコミュニティ大学講座実施回数	回	70.0	70.0	70.0	70.0	70.0	70.0	70.0	新規	
	活動指標	④	区立図書館の蔵書数	冊	823,645	826,445	829,254	832,073	834,902	837,740	840,588	新規	
取組方針 (2)	成果指標	①	「学んだことを地域で生かして活動をしている」と思う区民の割合	%	7.7	8.9	9.0	9.0	9.0	9.0	9.0	継続	8-2-1多様な学習活動の支援と学びの循環の創造
	成果指標	②	読み聞かせボランティアを派遣して開催したおはなし会への参加延人数	人	2,241	10,320	10,320	10,320	10,320	10,320	10,320	継続	8-2-1多様な学習活動の支援と学びの循環の創造
	活動指標	③	学習成果の発表機会数	回	386	350	375	400	425	450	475	継続	8-2-1多様な学習活動の支援と学びの循環の創造
	活動指標	④	読み聞かせボランティア派遣延人数	人	461	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	継続	8-2-1多様な学習活動の支援と学びの循環の創造

指標		指標の算出方法		指標の設定理由(施策目標との関係)		出典
取組方針 (1)	成果指標	①	満足度調査の設問「地域文化創造館の事業に参加したことがあるか」に対し、「ある」と回答した人の割合	施策に対する区民の印象を把握できる指標であるため		地域文化創造館利用者満足度調査
	成果指標	②	区立図書館(貸出コーナー含む)の図書年間貸出冊数	図書館運営の成果や区民の読書活動の状況を的確に示す指標であるため		所管課データ
	活動指標	③	としまコミュニティ大学の講座実施回数	学びの場の機会を提供する活動量を示す指標であるため		所管課データ
	活動指標	④	区立図書館の蔵書数	学びの場の機会を提供する活動量を示す指標であるため		所管課データ
取組方針 (2)	成果指標	①	「9 学んだことを地域で生かして活動をしている」の項目において、「どちらかというと思う」と回答した人の割合	施策に対する区民の印象を把握できる指標であるため		協働のまちづくりに関する区民意識調査
	成果指標	②	読み聞かせボランティアを派遣して開催したおはなし会への参加延人数	学習成果の発表機会を提供する活動量を示す指標であるため		所管課データ
	活動指標	③	としまコミュニティ大学や図書館での発表の場の開催回数	学習成果の発表機会を提供する活動量を示す指標であるため		所管課データ
	活動指標	④	読み聞かせボランティア派遣延人数	学習成果の発表機会を提供する活動量を示す指標であるため		所管課データ

【3. 計画に掲載する指標の選定】

	指標種類	取組方針及び 指標番号	選定指標	選定理由
1	成果指標(区民意識調査以外)	(1)ー②	区立図書館(貸出コーナー含む)の貸出冊数【冊】	・各取組方針の進捗を図るにふさわしく、施策を最も広く表していると考えられるため。
2	成果指標(区民意識調査以外)	(2)ー①	「学んだことを地域で生かして活動をしている」と思う区民の割合【%】	・両指標を記載することによって、学びの場の「提供」の視点と学びの成果の「展開」の視点をもって成果を表すことができるため。



施策(4-7) 多様な役割をもつ新たな図書館の実現

目指す姿

- 図書館が、本の貸出・閲覧の場としてだけでなく、居場所や交流の場を含め、誰もがそれぞれのスタイルで快適に利用できる文化振興、生涯学習及び地域コミュニティの拠点となっている。
- 図書館を通じて、子どもの読書活動や区民の学習活動がより活発となっている。

取組方針

情報収集、読書・学習スタイルの多様化

SNS、電子メディア、配信サービス、オンライン販売等の普及により、区民の情報収集、読書、学習のスタイルが多様化しています。

区民の知的欲求が高まる一方、子どもや若者の読書離れ、活字離れが指摘されています。

多様化する区民ニーズに対応するためには、関係機関等とのさらなる連携による読書活動の推進、DX推進によるサービスの充実・効率化等を進める必要があります。

地域の情報センター、読書活動・学習活動のハブとして図書館の整備

- 地域の文化・観光資源を生かした**特色ある図書館づくり**、蔵書の充実、他の図書館との連携強化、多様な講座・展示等を通じて、区民の暮らしを豊かにし、地域の課題解決につながる情報発信を進めます。また、知の拠点として、**地域文化の保存・継承を促進**するほか、司書等図書館員の資質向上、地域文化創造館等との連携のもと、それぞれの**知的好奇心、探求心、向学心を踏まえた多様な学びを支援**します。
- 電子図書館の充実、**手続きのオンライン化、サービスのセルフ化等**、地域の情報センターに**ふさわしいDX推進**を図ります。
- 保育園、子どもスキップ、区民ひろば、小中学校及び学校図書館、大学その他企業、団体、ボランティア等幅広い主体と連携・協働し、**年齢、障害の有無等を問わず、様々な機会、場所、方法で読書を楽しめる環境を確立**します。

図書館の新たな役割への期待

近年図書館は、生涯学習施設としてだけでなく、地域の活性化やまちづくりに欠かせない存在として注目されています。また、居場所や交流の場など、図書館の新たな役割への期待が高まっています。

新たな図書館への変革には、利用者視点による空間づくりが重要であるため、改築・改修による施設整備の機会を逸することなく最大限活用する必要があります。

居場所(サードプレイス)、交流の場、創造の場としての図書館の整備

- 施設の改築・改修にあわせて、家庭、学校、職場とは異なる、ほっとできる**居場所(サードプレイス)としての空間づくり**をすすめます。
- 「子どもと一緒に周囲に気兼ねなく利用したい」「読書や学習に専念したい」「カフェコーナーが欲しい」など、多様な利用者のニーズに応じた**居心地のよい図書館環境**を整備します。
- 図書館や本を通じて、**多くの人がつながり、交流できる**よう、ホールやグループ活動室など、ハード面の整備、イベントなどソフト面の充実を図ります。
- 図書館が**国籍や母語を越えた発見や交流の場**となるよう、**多文化サービスを拡充**します。
- 知識を得る場としてだけでなく、体験型講座、ワークショップ、グループ支援などを通じ、地域の発展とその担い手育成につながる、**創造の場としての図書館づくり**をすすめます。

【施策の効果を表す代表的な指標】

成果指標①	現状値 (2023年)	目標値 (2029年)
年間図書貸出数【冊】	2,092,784	2,300,000

成果指標②	現状値 (2023年)	目標値 (2029年)
年間図書館来館者数【人】	1,512,313	2,000,000

施策チェックシート

1. 施策名

	旧	新
施策名	多様な学習活動の支援と学の循環の創造(8-2-1)	多様な役割をもつ新たな図書館の実現

2. 施策のポイント

現状	課題	取組方針
①SNS、電子メディア、配信サービス、オンライン販売等の普及により区民の情報収集、読書のスタイルが多様化している。 ②「貸出・閲覧にとどまらない新たな図書館の役割への期待が高まっている。	①時代の変化や区民ニーズの多様化へのさらなる対応は求められる。 ②新たな図書館への変革には空間づくりが重要であり、施設整備の機会を逸することなく生かしていく必要があります。	①地域の情報センター、読書活動のハブとしての図書館の整備 ②居場所(サードプレイス)、交流の場としての図書館の整備

3. 現計画における主な事業

計画事業
点字図書館障害者サービス事業(345)
子どもの読書活動支援事業(346)
その他事業

施策チェックシート

4. 環境変化(社会動向・法改正・背景等)

- SNS、電子メディア、配信サービス等の普及により、区民の情報収集や読書のスタイルが多様化している。
- 読書バリアフリー法の施行、著作権法の改正、書店の減少等、図書館を取り巻く環境が変化している
- 「図書館は成長する有機体」と言われる中、近年、貸出・閲覧にとどまらない、居場所や交流の場等に対する図書館への期待が高まっている。既存の図書館の発想を超えた、地域活性化の起爆剤となりうる個性的な図書館の整備が全国各地で続いている。

5. 区民・関係団体等の声

区民・関係団体等の声	○自習ができる場所、子どもと安心して過ごせる場所、飲み物を飲むながらくつろげる場所など、利用者の多様な意見・要望がある。 ○子どもや視覚障害者等の読書活動への支援に携わりたいとの区民や関係団体の声が根強い。
施策に反映させた点	○居場所や交流の場所など新たな図書館の役割について言及した。 ○子どもの読書活動、読書バリアフリーの支援に関する区民や関係団体との連携について言及した。

6. 基本構想の3つの理念を意識した点

(1)多様性を意識した点	誰もがそれぞれのスタイルで快適に利用できる空間づくり、読書に困難を抱えている人でも多様な手段で読書を楽しめる環境整備について言及した。
(2)参画と協働を意識した点	区民ボランティア(読み聞かせ、朗読、点訳等)、学校、企業等に関する参画・協働について言及した。
(3)豊島区らしさを意識した点	地域の文化観光資源を生かした特色ある図書館づくりについて言及した。(明示していないが、ソメイヨシノ(駒込図書館)、中山道(巣鴨)、鉄道(上池袋)、赤い鳥(目白図書館)、アジア(池袋図書館)、池袋モンパルナス・横山光輝(千早図書館)、文化芸術・ビジネス支援(中央))

指標設定チェックシート

施策名	4-7	多様な役割をもつ新たな図書館の実現
部課名	文化商工部 図書館課	

【1. 目指す姿、取組方針と指標の対応関係】

目指す姿	取組方針	定量的評価		定性的評価
		成果指標	活動指標	数値目標では捉えられない／ 数値化できない評価の視点
○図書館が、本の貸出・閲覧の場としてだけでなく、居場所や交流の場を含め、誰もがそれぞれのスタイルで快適に利用できる文化振興、生涯学習及び地域コミュニティの拠点となっている。 ○図書館を通じて、子どもの読書活動や区民の学習活動が活発になっている。	(1) <地域の情報センター、読書活動・学習活動のハブとして図書館の整備> ○地域の文化・観光資源を生かした特色ある図書館づくり、蔵書の充実、他の図書館との連携強化、多様な講座・展示等を通じて、区民の暮らしを豊かにし、地域の課題解決につながる情報発信をすすめます。 また、知の拠点として、地域文化の保存・継承を促進するほか、司書等図書館員の資質向上、地域文化創造館等との連携のもと、それぞれの探求心、向学心に応じた多様な学びを支援します。 ○電子図書館の充実、手続きのオンライン化、サービスのセルフ化等、地域の情報センターにふさわしいDX推進を図ります。 ○保育園、子どもスキップ、区民ひろば、小中学校及び学校図書館、大学その他企業、団体、ボランティア等幅広い主体と連携・協働し、年齢、障害の有無等を問わず、様々な機会、場所、方法で読書を楽しめる環境を確立します。	① 年間図書貸出件数	③ レファレンス(調べもの支援)の実施回数	・本人の生活や地域の課題解決にどれだけ図書館が寄与しているか ・子どもの読書活動の推進に図書館がどれだけ寄与しているか ・視覚に障害がある人、日本語を母語としない人など、読書の課題を抱えている人の読書活動に図書館がどれだけ寄与しているか
		② 読み聞かせボランティアを派遣して開催したおはなし会の延べ参加人数	④ 点字図書館(ひかり文庫)の蔵書数	
	(2) <居場所(サードプレイス)、交流の場、創造の場としての図書館の整備> ○施設の改築・改修にあわせて、家庭、学校、職場とは異なる、ほっとできる居場所(サードプレイス)としての空間づくりをすすめます。 ○「子どもと一緒にでも周囲に気兼ねなく利用したい」「読書や学習に専念したい」「カフェコーナーが欲しい」など、多様な利用者のニーズに応じた居心地のよい図書館環境を整備します。 ○図書館や本を通じて、多くの人がつながり、交流できるよう、ホールやグループ活動室など、ハード面の整備、イベントなどソフト面の充実を図ります。 ○図書館が国籍や母語を越えた発見や交流の場となるよう、多文化サービスを拡充します。 ○知識を得る場としてだけでなく、体験型講座、ワークショップ、グループ支援などを通じて、地域の発展とその担い手育成につながる、創造の場としての図書館づくりをすすめます。	① 年間来館者数	③ 講座、イベントの開催回数	・本人の生活や地域の課題解決にどれだけ図書館が寄与しているか ・図書館が貸し出しや閲覧といった基本的な役割だけでなく、居場所や交流の場所としてそれだけ利用されているか ・図書館がまちの価値の向上にどれだけ寄与しているか
		② 利用者アンケートの総合評価のうち、「満足」「どちらかというと満足」と回答した人の割合	④ 館内の座席設置数	

【2. 施策の効果を表す代表的な指標】

【2. 施策の効果を表す代表的な指標】					新基本計画期間(2025-2029)						後期計画と同じ指標→継続 新計画で新規設定→新規	(左記、継続の指標のみ) 後期計画の施策番号・施策名	
指標名				単位	2023	2024	2025	2026	2027	2028			2029
					実績値	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値			目標値
取組方針 (1)	成果指標	①	年間図書貸出件数	冊	2,092,784	2,120,000	2,160,000	2,200,000	2,240,000	2,270,000	2,300,000	新規	
	成果指標	②	読み聞かせボランティアを派遣して開催したおはなし会の延べ参加人数	人	2,241	5,000	6,000	7,000	8,000	9,000	10,000	継続	
	活動指標	③	レファレンス(調べもの支援)の実施回数	回	48,140	48,800	49,000	49,200	49,400	49,600	50,000	新規	
	活動指標	④	点字図書館(ひかり文庫)の蔵書(資料)数	点	6,752	6,760	6,770	6,780	6,790	6,800	6,800	新規	
取組方針 (2)	成果指標	①	年間図書館来館者数	人	1,512,313	1,600,000	1,650,000	1,750,000	1,800,000	1,900,000	2,000,000	新規	
	成果指標	②	利用者アンケートの総合評価のうち「満足」「どちらかというと満足」と回答した人の割合	%	95.5	95.8	96.1	96.3	96.5	96.7	97.0	新規	
	活動指標	③	講座、イベントの開催回数	回	742	750	760	770	780	790	800	新規	
	活動指標	④	館内の座席設置数(7館合計)	席	652	652.0	652.0	700.0	700.0	720.0	720	新規	

指標			指標の算出方法	指標の設定理由(施策目標との関係)	出典
取組方針 (1)	成果指標	①	年間図書貸出件数	情報発信の成果を示す最適な指標であるため	所管課データ
	成果指標	②	読み聞かせボランティアを派遣して開催したおはなし会の延べ参加人数	区民との協働による読書活動の成果を示す最適な指標であるため	所管課データ
	活動指標	③	レファレンス(調べもの支援)の実施回数	調査研究の支援など情報センターとしての図書館の活動量を示す最適な指標であるため	所管課データ
	活動指標	④	点字図書館(ひかり文庫)の蔵書数	読書に課題を抱える利用者へのサービスの充実度を示す最適な指標であるため	所管課データ
取組方針 (2)	成果指標	①	年間来館者数	多くの区民が気軽に利用できることを目指す施策の成果を示す最適な指標であるため	所管課データ
	成果指標	②	利用者アンケートの総合評価のうち「満足」「どちらかというと満足」除く)の回答割合	館内環境の改善や図書館サービス充実の成果を示す最適な指標であるため	図書館利用者アンケート(満足度調査)
	活動指標	③	講座、イベントの開催回数	交流の場としての図書館を目指す施策の活動量を示す最適な指標であるため	所管課データ
	活動指標	④	館内の座席設置数	館内環境の充実度を示す最適な指標であるため	所管課データ

【3. 計画に掲載する指標の選定】

	指標種類	取組方針及び 指標番号	選定指標	選定理由
1	成果指標(区民意識調査以外)	(1)－①	年間図書貸出数	・各取組方針の進捗を図るにふさわしく、施策を最も広く表していると考えられるため。 ・両指標を記載することによって、図書館の基幹的役割、新たな役割双方を利用者の視点をもって科学的に表すことができるため。
2	成果指標(区民意識調査以外)	(2)－①	年間図書館来館者数	